

コペンハーゲン通信 8 Part II



6月8日、デンマーク版連合の主導により国会前で政府の経済政策パッケージに対するデモが行われました。泥棒マスクを着けた与野幹部の写真が翻っています。

デンマーク王国 DATA

人口551万人(≒北海道)、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

当会事務局職員が、2007年1月より在デンマーク日本大使館に
出向しています。国際競争力や人々の幸福度で高い評価を受け
るデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。

与野党論戦から 見えてきたもの

「政府はこっそりわれわれの金を盗みにくる夜盗」、「野党はデンマークにギリシャ・ダンスを踊らせる」。デンマークでは来年秋までに総選挙が実施される見込みですが、早くも既に与野党の論戦が始まっています。

その最大の焦点は経済政策。経済危機の影響も相まって、デンマークも今年対 GDP 比5%の財政赤字に陥りました。このような中、5月から6月にかけて与野党がそれぞれ経済対策案を発表。歳出削減による財政再建を優先する政府案、公共投資拡充と労働時間延長により成長を加速するという野党案を巡り、議論が続きました。

オープンな議論を通じて与野党の差異が明らかになる過程は、見ていてうらやましい限りですが、選挙を視野に入れた対立構造の下で、中長期的な経済運営の方針について議論をすることへの懸念もあるようです。超党派の議論によって2020年までの経済運営に関する合意を形成し、政権交代があってもそれを堅持する体制をつくるべき、と提言した中央銀行総裁がその例でしょう。次の政権を賭けて競い合う中では、与野党のどちらも、将来のために必要な「苦い薬」を処方できないという憂慮故の提言のようです。与野党双方にとって、とりわけ「苦い薬」として以下二点が挙げられます。

【労働市場改革】

「財政再建を優先する政府の判断は正しいが、十分とは言えない」。経済の専門家、主要メディアは声をそろえて、労働市場改革、特に早期退職年金制度の改革を提言してきました。デンマークの大卒者が労働市場に参入する平均年齢は29歳。他方、平均的な退職年齢は61～62歳(法定は65歳)。今後一層の少子高齢化が進行する中、一人当たり生涯労働年数を抑制する早期退職年金制度は、「賄い切れない贅沢」と見なされつつあるようです。

しかしながら、この制度は仕事も生活も大事にするデンマーク人に高い人気を誇り、ここに手をつけるには有権者



樋口 麻紀子

在デンマーク日本大使館一等書記官
(経済同友会事務局より出向中)

から相当の反発を覚悟しなければなりません。そのため、与野党とも、子ども手当、学生奨学金、失業保険給付等の見直しには触れるものの、この点については「物言えば唇寒し秋の風」状態です。

【公的部門改革】

財政悪化の直接の引き金は金融危機ですが、それ以前から続いていた公共支出の増大も大きな要因と言われています。この10年間、公的支出は年平均1.7%の割合で増大。医療費や障害者福祉の伸びによる部分が大きいようですが、長い好況の下、国民が「可能な限り最良の福祉」を享受することに慣れていった結果とも言われます。

政府は主に「冷たい手」、つまり事務・管理に当たる職員の雇用抑制や行政手続の効率化によって、福祉の質を落とすことなく支出を抑制する方針を示していますが、それだけで十分なのかどうか。極端な例とはいえ、行政訴訟の結果、地方に住む識字障害の児童を専門指導者がいる首都圏の学校に通わせるためのタクシー代を自治体が負担することになり、そのコストが年80万クローネに上った、といった報道もありました。「温かい手」を差し伸べる対象、範囲の見直しも必要なのかもしれません。



自由党とともに内閣を構成する保守党による新聞広告。「野党に任せておいたら、デンマークがギリシャ・ダンスを踊る(財政難に陥る)」という趣旨のキャンペーンでしたが、当然、ギリシャ大使館から抗議が入ったようです。